

北日本新聞

2024年(令和6年)

1月20日

土曜日

先負 大寒

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
〒930-0094 電話076-445-3300
©北日本新聞社 2024

じやま経済

県内企業で交流サイト(SNS)の利用が広がってきた。自社の製品や事業を最終消費者に直接アピールできるだけでなく、情報の拡散力にも優れており、広報戦略の柱になりつつある。

(飯田章太郎)



県内企業の広報担当者がSNSの活用方法について学ぶ「富山X会」が、2〜3カ月に1回開かれている。名称は大手SNSのX(旧ツイッター)になら

広がる企業のSNS利用 ⑮

情報拡散力に期待

む。会員企業数は75社と2021年12月の設立から4倍近くに拡大した。
フォロー急増
幹事会社で「正露丸」を主力とするキョクトウ(富山市牛島新町、福見勉社長)は自社の知名度向上のため、2020年10月にツイッター(当時)の利用を始めた。ヒット商品「マイクポップコーン」で有名なジャパンフリトレー(茨城県古河市)

や、清酒大手の白鶴酒造(神戸市とコラボレーションした商品プレゼントキャンペーンをツ

116万アクセスがあった。ここ数年、同社の類似製品を販売する企業が増え、競争が激しくなっている。広報を担当する経営推進本部の福澤徳子氏は「SNSは重要な情報発信の手段と認識している」と話した。

千人に達した。企業が意図せずSNSで「バズる」(広く話題が拡散される)こともある。

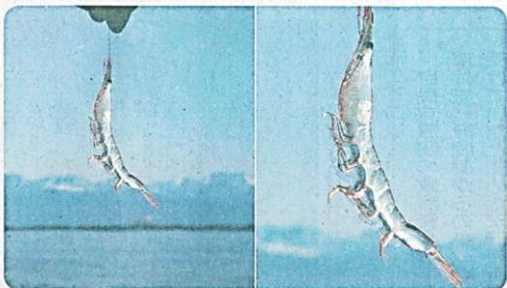
日の出屋製菓産業(南砺市田中・福光、川合声一社長)では、21年4月にシロエビを釣り上げた写真がツイッター上で注目され4・3万の「いいね」を集めたほか、有名ヒアリストがアットプロードした写真に定番商品「こぶ柿」が写り込んでいたのをきっかけに、同社製品のファンが情報を拡散。昨年はインターネット掲示板「ちゃんねる」の創設者で実業家の西村博之さんが紹介した同社のつづやきに

採用に活用
SNSのアカウントを開設したものの活用しきれない企業が多い中、リサイクル機械メーカーのエムタイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)は、Xやフェイスブック、インスタグラムなど5つのSNSを使っている。

同社の業態はBtoB(企業間取引)。一般の消費者と直接取引しないため、認知度アップが課題だった。安全靴の断面を切断する動画や業務の加工風景をSNSで発信し、人材確保につなげたいと考えた。森社長は売り上げに直結しないかもしれないが、知名度の向上や採用活動に有効」と期待する。

日の出屋製菓【公式】富山しろえびせん / @hinodeyase · 2021年4月27日 ...
【富山湾の宝石】
スツとシャッターをきっただけなのにこの美しさ、富山の宝物です。

しろえびが透明過ぎて光が屈折して虹色になりましたこの美しさをたくさんの人に知ってほしい...
控え目にいいやばい
#しろえび
#立山連峰
#加工なし



50 1.1万 4.3万

SNS上で注目された日の出屋製菓産業のツイート



県内企業の広報担当者がSNSの活用方法について学ぶX会「X会」

採用に活用
SNSのアカウントを開設したものの活用しきれない企業が多い中、リサイクル機械メーカーのエムタイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)は、Xやフェイスブック、インスタグラムなど5つのSNSを使っている。